

舞鶴ふるさと発見館（舞鶴市郷土資料館）だより

令和3年10月

海軍鎮守府開庁120年記念事業について

10月1日は、明治34年(1901)に旧海軍舞鶴鎮守府が開庁して120年にあたります。これを記念して舞鶴市や関係機関により、シンポジウムや展示会など様々な記念行事が開催されます。

☆郷土資料館企画展

名称 海図150周年・舞鶴鎮守府開庁120周年記念特別企画展
「鎮守府がやってきた！一海の地図と伊藤雋吉と海軍と」

会期 10月2日(土)から31日(日) 9:00～17:00

※2日のみ10:00からのテープカット後の入場となります。

会場 赤れんがパーク3号棟 まいづる智恵蔵 企画展示室

主催 海上保安庁第八管区海上保安本部、舞鶴市



舞鶴鎮守府庁舎のレリーフ



伊藤雋吉

☆今月の一品

今月の一品は阪鶴鉄道のレールです。阪鶴鉄道とは阪神と舞鶴を直結する鉄道として、明治26(1893)年に計画されました。33年には大阪—福知山間が開通しました。その後、福知山—新舞鶴間は日露開戦に備えて国直営で敷設され、それを阪鶴鉄道に貸与して明治37年11月3日から営業開始しました。舞鶴に鎮守府ができたことで次々と舞鶴に至る鉄道が計画されましたが、鉄道敷設には巨額の資金が必要とされることから、なかなか実現せず、待望の開業でした。展示のレールは福知山—大阪間で使用されたものです。「1896 IIIIIIIII HANKAKU」とあり、製造は明治29年9月、米国カーネギー社かキャンベル社製で、もとは約25m(750kg)ありました。

廃棄後は建築部材として、ビルの骨組みや福知山駅のホーム支柱梁などにも使われていました。



☆糸井文庫コーナー

糸井文庫は岩滝出身の糸井仙之助氏が収集した丹後関連の歴史資料群です。中でも、丹後の伝説のコレクションの中には約200点の浮世絵が含まれています。当館ではこの中から4～5点ずつ、月替わりで展示しています。今月は「明治の浮世絵」をテーマに選びました。下の浮世絵は、静御前が鎌倉の鶴岡八幡宮の源頼朝の前で義経を慕う舞を舞う場面ですが、鎌倉武士の顔はまるで明治の軍人の顔のようです。



☆新型コロナウイルス感染予防について

新型コロナウイルス感染予防対策として消毒・マスク着用・ソーシャルディスタンスにご協力ください。

また、体温計測、来館者名簿への記名をお願いしています。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

お問い合わせは

舞鶴ふるさと発見館(舞鶴市郷土資料館)

TEL:0773-75-8836

(受付時間 9:00～16:30)

FAX:0773-77-1314

住所:舞鶴市字南田辺1番地

(ゆうさい会館(西総合会館)1F北側)

展示室入場料:大人 100 円、

市外学生 50 円

サロンスペース:無料

休館日:4(月)・11(月)・18(月)・25(月)

駐車場:市営南田辺駐車場(1時間無料)

